

児童発達支援事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和3年2月8日

事業所名：赤穂市児童発達支援事業あしたば園

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	今年度は、感染症対策のため小集団をさらに細分化し、時間差で部屋を使用するなど工夫を行った。	全員「はい」の回答	今後も利用される方が安心して過ごせるよう、今ある資源で、スペースの確保等の工夫を行い、プログラム内容に影響が出ないようサービス提供していきたい。
	2 職員の適切な配置	4～5名に利用者、親子に対して3名の指導員に加え、人数によってはパート職員を配置している。 その他、言語聴覚士2名も常勤している。	「はい」86 「どちらともいえない」1 「わからない」2 ・職員の数が少ないと感じる。	大部分の保護者が適切な配置であると感じている。今後も、保護者とコミュニケーションを十分取るよう努める。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	スケジュールなど、シンボル(絵)や写真など視覚支援を継続している。保育、SSTでも個人に合わせて視覚支援を工夫している。子どもにとって分かりやすい環境を整えている。	全員「はい」の回答 ・子どもの作品を飾ってくれ、とても嬉しい。 ・季節に応じた廊下の飾りが素敵。 ・絵カードなどで、子どもは混乱することなく準備をすすめられている。	今後も、子どもたちに合わせた情報の伝達方法や環境の整備を工夫していきたい。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	朝、夕清掃業者が清掃をおこなっている。空調、床暖房など設置、快適に過ごせる環境。 空間除菌用品を各部屋に設置したり、次亜塩素酸系の消毒液で手すりや触れる場所を消毒したり、アルコール消毒してから入室の徹底をするなど、感染症の予防に継続して努めている。	全員「はい」の回答 ・いつもきれいに整理整頓されていて、気持ちが良い。 ・季節によって壁面の飾り付けが変わり、毎回楽しみにしている。工夫していると思う。 ・子どもの宿題を掲示してくれるため、子どものモチベーションが上がっている。	今後も清潔で安全・快適に過ごせる空間作りを行っていきたい。 感染症対策も継続して徹底していきたい。 今後も季節感を取り入れ、子どもの情動に働きかけられるような空間作りを意識し、工夫を重ねていきたい。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	今年度は感染症対策に関する業務の確認や見直しなど、職員全員の積極的な参画があった。		改善した業務について、実施した後の報告や連絡等職員間で積極的なやり取りがあった。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない。		現在のところ実施の予定はない。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	感染症対策のため、昨年度に比べて縮小したり、回数を調整したりと工夫が必要であったが、外部講師を招聘し、各専門家と共に症例研修を行う機会を設けることができた。		職場内外の研修を継続し職員のさらなるスキルアップに努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画の作成	保護者への聞き取りを柱に、各発達検査や発達相談等の内容も参考にし、共通のアセスメントシートを活用することで、支援計画に反映するようにしている。	全員「はい」の回答 ・具体的な支援内容で、丁寧にしてきて、とても分かりやすい。	今後も適切なアセスメントが行えるように努める。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援計画の作成	0歳児から5歳児まで年齢別にクラス設定している。1グループは5名程度。0歳児から3歳児までは親子で保育プログラムに参加を推奨し、4、5歳児についてはお父さまをお預かりしてSSTを実施している。プログラムの中で、小集団で実施する内容と、支援計画に則った個別プログラムを組み合わせ実施している。	「はい」88 「わからない」1 ・3歳児までの親子保育には意味があると分かった。 ・SSTは役に立っていると思う。 ・利用し始めたばかりなので、まだ分からない。 ・個別で勉強する時間があったり、集団のプログラムを組んでいたりと工夫を感じる。	今後も、集団活動と個別の対応を組み合わせ子どもの特性に合わせた支援計画の立案に努める。
	3	児童発達支援計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	アセスメントを元に、子どもに合わせて必要な項目を設定している。支援の内容は、どの職員が対応しても分かりやすく具体的に記述しており、家庭でも取り入れやすいようイラストも導入している。	「はい」88 「わからない」1 ・適切な計画が立てられていると思う。 ・とても分かりやすく支援計画を説明してもらった。	今後も個々の状態に合わせて必要な項目を設定できるよう努めていく。
	4	児童発達支援計画に沿った適切な支援の実施	基本的に子どもたちへの支援は計画に則って実施、提供されている。状況に合わせ、内容を変更したり新たに加えたりする場合は保護者と相談し、実施している。期間を区切って評価を重ね、方針を見直す機会も設けている。	「はい」88 「わからない」1 ・フィードバックの時に、報告があり支援の変更や強化については承知している。 ・今日が初めての利用なので分からない。	今後も支援計画に則ったサービス提供に努める。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	児童発達支援管理責任者と共に職員全体で立案している。また、PTやST、OTなどの専門職とも意見交換を行い活動に反映させている。	全員「はい」の回答 ・職員の連絡、連携が良く、雰囲気が良い。 ・我が子の為に、教具や姿勢保持などいつも工夫して頂いてるので、とてもありがたい。 ・あしたば園に通うようになり、家での行動がとても落ち着いた。買い物も一緒に行けるようになった。 ・家ではなかなかできないことも、あしたば園ではしようという気になるので、すごく満足している。 ・1対1で個別指導があり、先取の学習ができるのでとてもありがたい。 ・個別の後フィードバックをしてくれるのが、とても分かりやすくて良い。	各専門職の助言も交え、今後もチームでプログラムの立案をおこなう。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	基本的に長期休暇(夏休み等)は開園している。平日の欠席が続くと、幼稚園や保育所に連絡し状況を把握したり、家庭への連絡などを状況に合わせて実施している。感染症対策で自粛が続いた期間には、家庭でできる内容や、保育内容をDVDにまとめ、教材と共に配布するなど工夫を行った。		今後も利用しやすい環境作りに努め、状況に合わせたきめ細やかな支援の実施に努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	年齢やグループによって内容を工夫したり、季節の行事や制作活動を取り入れている。また、作品を廊下に展示することで、他児の作品に興味を持ったり、年長の子どもの作品を見て憧れを抱いたりするなど、良い効果が表れている。	・安心して通える雰囲気があり喜んで行っている。大満足。 ・凄く成長していると感じる。ありがとうございます。	子ども達が意欲をもって取り組めるプログラムになるように努める。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援開始前に、職員全員で打ち合わせをし共通理解している。互いに情報交換することで、支援内容に一貫性を持たせている。どの職員が対応しても、質は担保されるよう努めている。		引き続きパートの職員にも確実に情報伝達できるよう、書面などによる伝達にも工夫を行っていく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	各部門間で終了後に毎回意見交換を実施している。また、記録の振り返りもでき、情報の共有もできている。		引き続き職員間の情報共有に努める。
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	サービス提供記録には、状況や子どもの様子を毎回記録している。記録者は担当者確認印を押印し、月ごとに管理者と運営管理者に提出し、検証・確認を行っている。		家庭支援の経過なども記録し活用していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画の見直し	基本的に、半年ごとに保護者の方と一緒に個別支援計画の見直しをしているが、今年度は自粛期間があり、時期が遅れた。再開してから、状況に合わせて随時見直しを行っている。内容によっては、保護者の同意を得て内容を変更している。		成長発達に応じて柔軟に対応していく。
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達支援管理責任者が担当者会議に出席している。相談支援事業所との風通しもよく、情報交換はよく行なえている。		今後もより子どもたちに適した支援体制作りのため、積極的にサービス調整会議に参加する。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	吸引等の医療的ケアが必要な子どもは在籍していない。しかし、地域の関係機関とは保護者の要望や将来的な希望に合わせて連携をとっている。		今後、医療的ケア児の利用があった場合でも、関係機関と連携する体制作りを行えるようにする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容		
関係機関との連携(続き)	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	赤穂市民病院と協力医療機関の覚書を取り交わしている。		今後も協力関係機関との連携を図る。	
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	小、幼、保と連携連絡会があり情報交換を年数回行っている。また、幼、保のヒヤリングも実施している。それ以外でも、状況に合わせて随時園所を訪問し連携会議を開催している。		今後も連携を密にし、必要な情報の伝達を行い、保護者や子どもたちが楽しく園所の生活が送れるよう連携していく。	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供				
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	調整ができる範囲で積極的に参加している。		今後も積極的に参加する予定。	
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	それぞれ幼稚園、保育所を主な所属先としている。利用日に交流し、当園は契約内容に則って必要なサービスを提供している。通常、子どもたちは、地域での活動が基盤となっている。交流の園所とは、職員間でもヒヤリングを実施している。	「はい」89 「わからない」1	子どもたちも保護者の方も安心できるよう、移行前後の連携をはじめ必要時にはいつでも訪問し、連携を密に行う。	
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域の方々から見学の要望等があった場合は、利用者の個人情報に配慮しながら受け入れるようにしている。また、関係機関からの見学等も積極的に受け入れている。		療育を理解していただく為、今後も積極的に受け入れる。	
	保護者・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用契約時に、保護者に丁寧に説明し、納得を得た上で契約を締結している。	「はい」88 「わからない」1	書面で示しながら、丁寧な説明を今後も実施していく。
		2	児童発達支援計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	保護者の主訴を中心に、個々の状況に応じた児童発達支援計画を作成している。内容については、保護者に提示し丁寧な説明を心がけている。	「はい」88 「わからない」1	今後も保護者に分かりやすい説明や分かりやすい表現を行い、より丁寧な説明が行えるよう心がける。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責任・連携支援(続き)	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	お知らせプリントを作成し、全員に配布した上で、希望者を募り実施している。例年、年間2グループ実施しているが、今年度は感染症拡大防止のため、1グループのみの実施となった。4～5人で構成し、1グループ全8回のセッションで行っている。	毎回楽しみにしている。 話が分かりやすい。 ペアトレで話を聞くことで、自分を振り返ることができている。 宿題がためになる。 参加してみても良かった。	年々希望者が増加傾向にある。 感染症の対策を工夫しながら、来年度以降も希望に添って実施を継続していく。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	親子保育の中で伝えたり、SSTの降園時に保護者を保育室に迎え入れ、教材を見せながらフィードバックしている。また、仕事をしている保護者等には、連絡ノートを作り、子どもの様子を伝えるなどして連携を図っている。	「はい」87 「どちらともいえない」2 具体的にアドバイスをもらえる。 毎回丁寧に説明してくれ、一緒に考えてくれる。 顔を合わせると声をかけてくれ、気軽に相談できる。 SSTの後のフィードバックが有難い。 伸びているところ、困っているところが分かる。 話を聞き、共通理解している。 フィードバックの時間が保護者も楽しみ。	引き続き、丁寧なフィードバックを心がけ、保護者と共通認識が持てるようにしていく。 感染症拡大防止にも配慮し、部屋の換気や密になることを避ける工夫をしながら、保護者とのコミュニケーションを大切にしていきたい。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	臨床心理士2名に、併せて年間16回のグループカウンセリングと個別カウンセリングを実施してもらっている。その他、随時保護者からの相談は職員が受け、必要な場合は心理士に繋いでいる。	「はい」87 「どちらともいえない」1 「わからない」1 悩み事を聞いてくれて助かる。 ボタンかけの練習方法など、細かい悩み事まで一緒に考えてもらい、心強かった。 急な相談や電話にも丁寧に対応してくれる。	身近な職員との日頃のコミュニケーションと合わせて、専門家のカウンセリングを大切に考え、今後も予定している。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	例年であれば、保護者主催による「親の会」の総会、就園就学の交流会、保護者を対象とした研修会、懇親会等を開催しているが、今年度は感染症対策のため、希望者を募り、一部の研修会のみ実施されている。	「はい」74 「どちらともいえない」7 「わからない」8 定期的に案内はもらっている。 行けるタイミングがあれば、是非参加してみたい。 今年は、感染症拡大防止のために開催されなくて残念です。	「親の会」としての交流は持てなかったことは残念。しかし、親子保育で同じグループだったことがきっかけとなったり、所属園所が一緒だったことで交流ができたりと、保護者同士のつながりは広がっている。SNSでもつながり、情報の交換もされているというグループもある様子。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	管理者が初期の苦情窓口となっている。また、重要事項説明書の内容に則って、別にも設けている虐待及び苦情受付担当窓口の周知も契約時に行っている。	「はい」86 「わからない」6 親身になって聞いてくれている。	今後、苦情や虐待防止に関する相談があった場合は、迅速かつ丁寧に対応を行いたい。 その他、心理士等の助言も仰ぎ、保護者に寄り添った対応を行っていきたい。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	マカトサイン、写真、絵カード、リマインドシート、言語補助装置、タブレット等を活用し、支援を行っている。	「はい」87 「どちらともいえない」1 「わからない」1	引き続き個々に応じた工夫や配慮を行う。 症例研修などを通して、新しい情報を学び、個々に適した情報伝達の方法を、所属園所にも情報提供できるよう引き続き連携を行う。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月、年齢別保育とSSTグループ、言語聴覚士からのお便りを出したり、掲示等により発信している。また、相談連絡先などを自由に持ちかえることができるような工夫も行っている。今年度より、各配布プリントの発信に加えて、一斉メールでの情報配信を整備した。	全員「はい」の回答 分かりやすく、かわいい園だよりを毎月楽しみにしている。 ためになるコラムや手遊びの紹介もあり、毎月綴って保管している。 利用日や、関係のある行事にマーカーで印をつけてくれているので助かる。 個別にお知らせも配布してくれ、助かる。	引き続き、保護者が読んで分かりやすい園だよりの作成を心がける。 その他、メールでの配信で迅速かつ平等に情報が保護者に行き渡るよう一斉メールを整備したため、今後も必要な情報が行き渡るよう活用していく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の管理について、契約時に重要事項説明書で説明を行っている。個人情報の取り扱いについては、事務所内の鍵付キャビネットに保管している。職員が帰宅時には、当番制で施錠の確認を行っている。	全員「はい」	「個人情報」の取り扱いについて、日頃から職員全員で意識を高めていく。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアルについて保護者には契約締結時に説明している。 職員間でも情報共有している。	「はい」88 「わかりません」1 廊下に掲示してくれている。	これからも保護者の方に周知していくために、丁寧な説明を行っていく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回、すこやかセンター全体で避難訓練を実施している。保護者にも、避難訓練があることを説明、協力を依頼している。	「はい」85 「わからない」4 一緒に避難訓練したと子どもから聞いている。 避難用のすべり台を使う経験はなかった。	全クラスがスムーズに避難することができるよう訓練に積極的に参加し、職員の意識を高めていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	倫理研修に参加している。虐待や人権に対する職員の意識を高めるようにしている。		今後も職員の意識を高めていけるよう、研修等に積極的に参加していく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	身体拘束は行っていない。		
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	園内での給食は提供していない。初回面接時には、個々のアレルギー調査は実施している。		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時の対応	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	安全面の配慮については、職員間で打ち合わせと、マニュアル等を掲示し情報を共有している。事例集は作成していない。		引き続き職員間で共有していく。